人を、想う力。街を、想う力。
三菱地所

丸の内 Reデザイン

2020年9月17日

報道関係各位

三菱地所株式会社

世界に誇る日本の新たなシンボルが「日本を明るく、元気にする」

東京駅前常盤橋プロジェクトの街区名称を「TOKYO TORCH（トウキョウ トーチ）」に決定

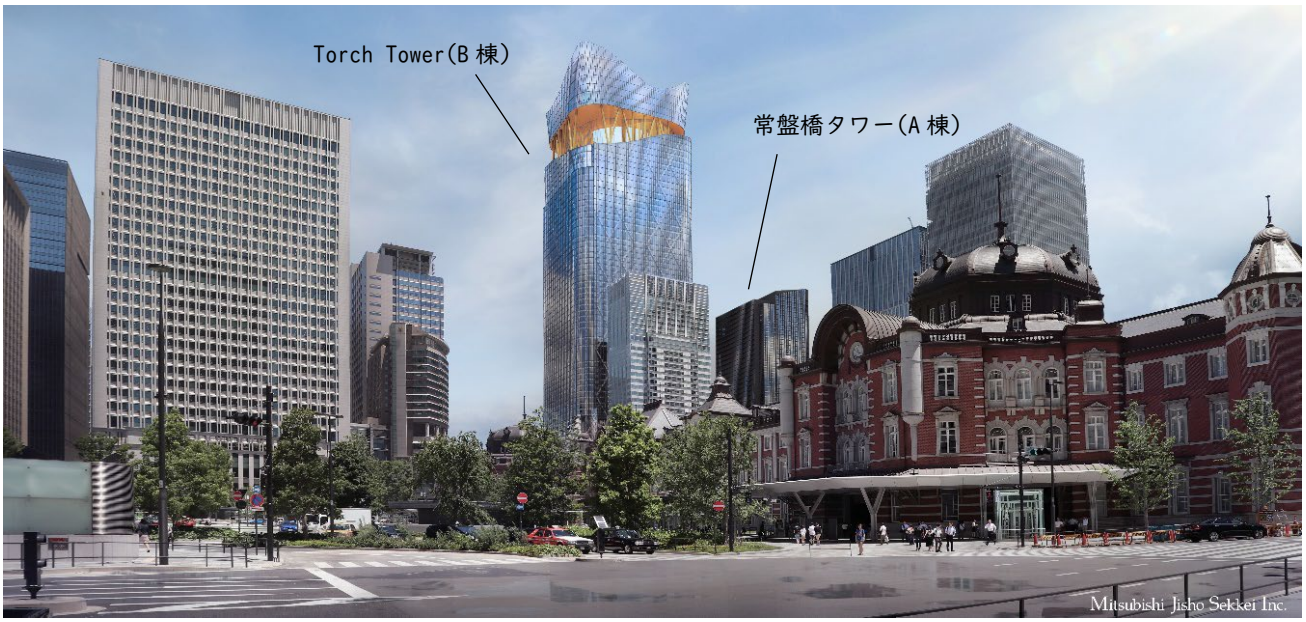
2027年度、東京駅前にニューノーマルを見据えた約2.0haの屋外空間を整備した新たな街が誕生

三菱地所株式会社は、東京駅日本橋口前に位置する常盤橋街区において関係権利者の方々と共に開発を進めております「東京駅前常盤橋プロジェクト(大手町二丁目常盤橋地区第一種市街地再開発事業)」の街区名称を**「TOKYO TORCH（トウキョウトーチ）」**に決定いたしましたので、お知らせします。

合わせて街区内に建設・計画中の２棟のタワーについて、A棟（高さ約212m、2021年6月末竣工予定）の名称を**「常盤橋タワー」**に、B棟（高さ約390m、2027 年度竣工予定）の名称を**「Torch Tower（トーチタワー）」**に決定いたしました。

また、本プロジェクトは、東京圏の国家戦略特別区域計画の特定事業として、2016年度に都市計画決定済みですが、時勢や周辺環境の変化に対応すべく、今般、追加的な都市再生貢献項目と共に、都市計画変更手続きを開始いたしました。具体的には、「Torch Tower（B棟）」に、都心最高層クラスの展望施設、約100室の国際級ホテル及び約2,000席の大規模ホールを整備するほか、呉服橋交差点地下歩行者通路の整備や約7,000㎡の大規模広場を活用した帰宅困難者支援機能の強化等を行います。**なお、ポストコロナ時代のニューノーマルを見据え、「TOKYO TORCH」全体で約2.0ha（＝約20,000㎡）の屋外空間を整備する計画としています。**

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を経験し、リアルが真に提供すべき価値とは何かが問われています。本プロジェクトを通じ、リアルでしか体験できない感動や興奮を集積させた、世界に誇る日本の新しいシンボルをつくることが、未来への希望の灯りになると信じ、本まちづくりを推進してまいります。



▲TOKYO TORCH 全体開業時外観イメージ／JR 東京駅丸の内側より

プロジェクトビジョンと常盤橋街区が果たすべき３つの役割

かつて江戸城へ向かう表玄関である常盤橋御門があった常盤橋街区は、常に社会の要請に応えるまちとしての役割を果たしてきました。現在の常盤橋街区は、1960年代に、下水ポンプ所・変電所等のインフラ施設との複合開発が進められ、当時、東洋一の規模を誇るといわれた日本ビルをはじめとしたオフィスビルが建設されたことで、日本の経済成長を支える街としての地位を築きました。

現在進めております10年超の期間にわたる再整備においても、その思想を受け継ぎ、**「日本を明るく、元気にする」**をプロジェクトビジョンとし、事業を推進しております。

プロジェクトビジョンの実現に向けて新たに生まれ変わる常盤橋街区が果たすべき役割については、以下の３つと捉えています。

①東京・日本の魅力を発信

— 再び世界からたくさんの人々が訪れる東京・日本の玄関口となるべく、この場所でしか体験できない東京・日本の魅力を発信

②ワーク・ライフ・インテグレーションを推進

— ポストコロナ時代で、より一層重要視されるワーク・ライフ・インテグレーションを後押しし、都市で過ごす人々の人生100年を豊かにするコンテンツ・サービスを提供

③ONE TEAMで東京・日本をリードするまちづくりを体現

— 開発段階から、本プロジェクトに共感する企業、地方自治体、個人の輪を広げ、ONE TEAMでこれからの東京・日本をリードするまちづくりを体現

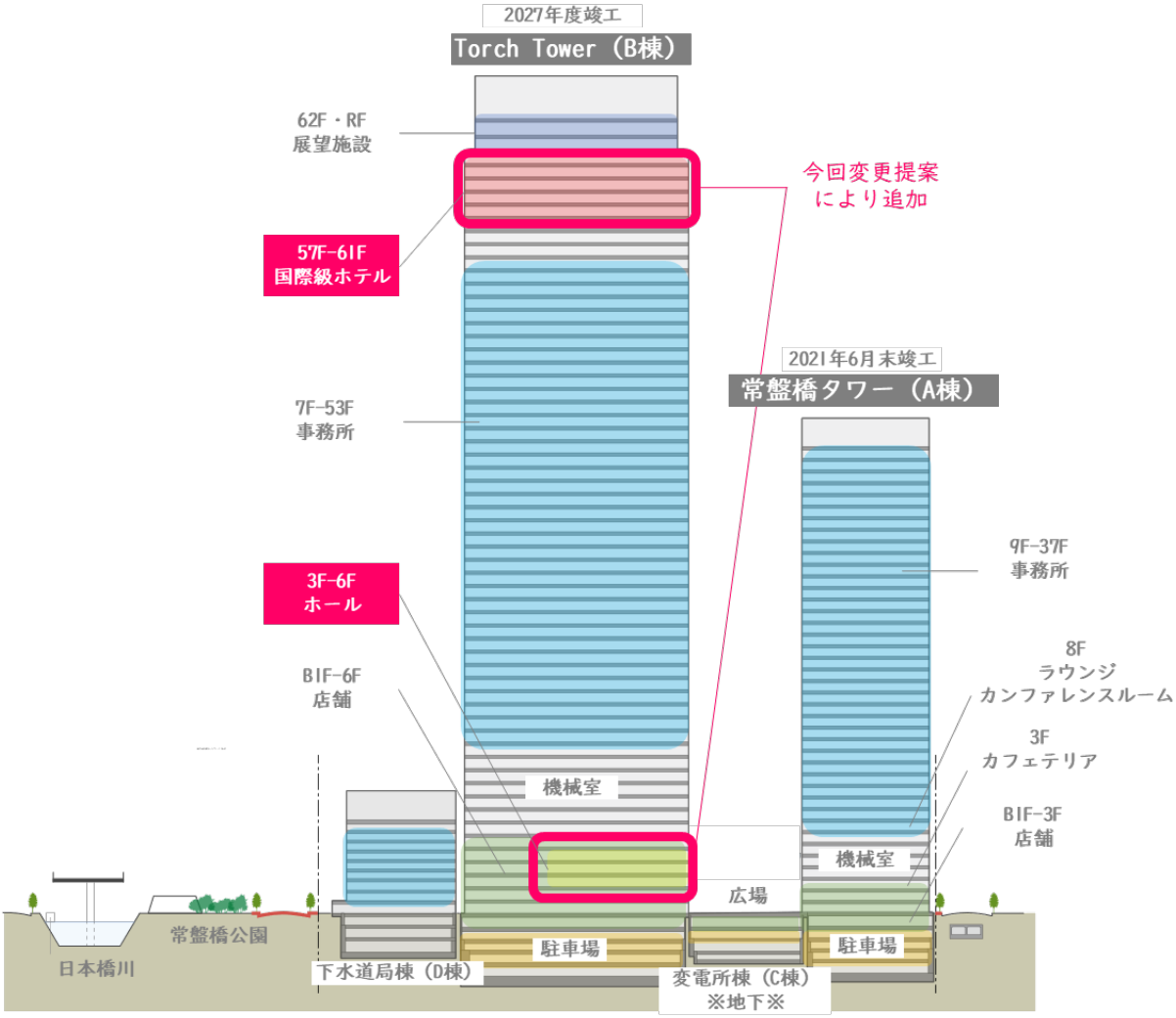
街区名称・ロゴ

この度決定した**「TOKYO TORCH（トウキョウトーチ）」**という街区名称には、「Torch」のもつ「灯り」のイメージと、プロジェクトビジョン「日本を明るく、元気にする」を重ね合わせ、常盤橋街区が、日本を明るく照らす希望の灯りのような存在でありたいという想いを込めています。

TOKYO
TORCH

街区ロゴは、街区名称である「TOKYO TORCH」そのものを表現する「灯り」のイメージと、ワクワク、ドキドキを生み出す「人や街のつながり」をモチーフに新しい常盤橋を象徴するシンプルで力強いアイコンとしています。色は、チャレンジし続ける情熱と、炎そのものを想起させながらも、日本で古くから建築物に使用されてきた銅に由来し、安心と深みを感じさせるコッパー色を採用しています。

用途構成



Torch Tower（B棟）の特徴

（１）建物概要

▲Torch Tower（B 棟）（JR 東京駅丸の内側より）

高　　さ：約 390m
階　　数：地上 63 階・地下 4 階
主要用途：事務所、ホテル、ホール、
　　店舗、駐車場等
延床面積：約 544,000 ㎡
着　　工：2023 年度予定
竣　　工：2027 年度予定

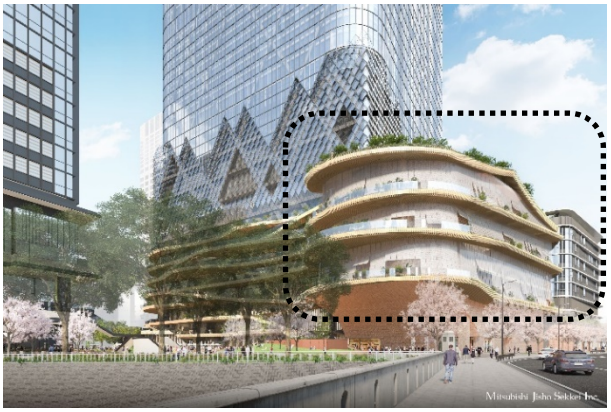
▲広場（JR 東京駅日本橋口より）

（２）都心最高層クラスの展望施設、国際級ホテル、大規模ホール

高さ350m超のTorch Tower（B棟）の62F・RFには、都心を眼下に、遠く富士山を臨むことができる、屋外空間併設の展望施設を整備。57F-61Fには、圧巻の眺望と世界水準のホスピタリティが約束された国際級ホテル（約100室）を誘致します。57Fのホテルロビー階は、外気を取り入れるデザインとし、300m超の高さでありながら、緑と風に包まれる希少な空間が、特別感を演出します。

3F-6Fには、現代の芝居小屋をモチーフにした大規模ホール（約2,000席）、B1F-6Fには商業ゾーン（約4,500坪）を整備。大規模ホールでは、常盤橋タワー（A棟）とTorch Tower（B棟）間に完成する広場（約7,000㎡）とのコンテンツ連動により、ダイナミックなイベント展開が可能となります。商業ゾーンについては、東京・日本の文化を五感で味わえる飲食店舗とエンターテインメント施設を中心に構成予定です。商業ゾーンの一部には、銭湯発祥の地ともいわれる常盤橋ゆかりの温浴施設「常盤湯」を、また、広場の一角には横丁空間の整備も予定しています。

▲57F ホテルロビー



▲3F-6F ホール外装

▲南西方向の眺望イメージ（H=365m/2020 年 8 月撮影）

（３）充実した地下歩行者ネットワーク

TOKYO TORCHは、東京メトロ東西線「大手町」駅コンコースと直結予定ですが、将来的には大手町エリアと日本橋エリアを地下で結節する呉服橋交差点地下歩行者通路を整備予定です。JR東京駅日本橋口すぐという地上のアクセス性に加え、地下についても高いアクセス性も備える計画となります。

（４）安心・安全なまちづくり

約390mの高さとなるTorch Tower（B棟）では、建物全体を殻のように包み込むアウトブレースを効果的に利用した外殻制振構造を採用することで、地震時や強風時の揺れを大幅に低減し、国内最高水準の耐震性能を実現します。なお、広場（約7,000㎡）には、有事の際に、災害復旧活動の拠点機能を担うための各種設備（大型ビジョン、Wi-Fi環境等）を実装。加えて、Torch Tower（B棟）低層部に整備する大規模ホールを、災害時の帰宅困難者の一時滞在施設、全天候対応の一時滞留スペース等として活用することにより、帰宅困難者支援機能も強化していきます。

（5）次世代アーキテクトチームによる建築デザイン

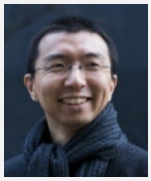
プロジェクトビジョンである「日本を明るく、元気にする」を、デザインにおいても表現すべく、Torch Tower（B棟）及び広場のデザインの検討にあたっては、コアアーキテクト・デザイナーの㈱三菱地所設計と次世代を担う３名のデザインアドバイザーとのデザインチームを組成しました。

株式会社三菱地所設計
コアアーキテクト・デザイナー

大手町連鎖型再開発の第１次から第４次(本プロジェクト)に至るまで、
全ての設計監理を担当。
本プロジェクトにおいては、「常盤橋プロジェクト室」という専任組織を組成し、
設計・デザインを推進。

常盤橋プロジェクト室長
まつだ こうじ
松田 貢治 氏

ふじもと そうすけ
藤本 壮介 氏



藤本壮介建築設計事務所主宰
〔担当範囲〕
頂部デザイン
〔代表実績〕
2025 大阪・関西万博
会場デザインプロデューサー
武蔵野美術大学美術館・図書館

ながやま ゆうこ
永山 祐子 氏

永山祐子建築設計事務所主宰
〔担当範囲〕
低層部デザイン
〔代表実績〕
豊島横尾館
ドバイ国際博覧会日本館

ふくおか たかのり
福岡 孝則 氏

Fd Landscape 代表
〔担当範囲〕
広場デザイン
〔代表実績〕
南町田グランベリーパーク
コートヤード HIROO

常盤橋タワー（A 棟）の特徴

（１）建物概要

▲常盤橋タワー（A 棟）（街区南東より）

高　　さ：約 212m
階　　数：地上 38 階※・地下 5 階
※建築基準法上、地上 40 階
主要用途：事務所、店舗、駐車場等
延床面積：約 146,000 ㎡
着　　工：2018 年 1 月
竣　　工：2021 年 6 月末予定

▲常盤橋タワー（A 棟）（南西エントランス）

（２）ワーク・ライフ・インテグレーションを後押しするハード・ソフトを整備

常盤橋タワー（A棟）では、ビル就業者向けの共用スペースを２フロア整備します（3F：カフェテリア、8F：ラウンジ・カンファレンスルーム）。さらに、リアルな場における活動をより円滑化・価値最大化するための共用サービスとして、エレベーターの行先予報システムや、モバイルセキュリティ認証の導入、3Fカフェテリアにおける席予約・注文・決済、8Fカンファレンスルームの予約等のICTサービスを提供予定です。それらのICTサービスは、すべてビル就業者専用アプリ・WEBサイトに機能集約し、ストレスフリーに各種サービスを利用できる姿を目指します。また、株式会社Zehitomoとの協業により、常盤橋タワー（A棟）竣工時に整備する先行整備広場（約3,000㎡）と、3Fカフェテリアのスペースを有効活用したビル就業者向けのウェルネス、ビューティー関連サービスを展開予定です。

▲3F カフェテリア

▲8F ラウンジ

▲先行整備広場（街区南西より）

▲先行整備広場（街区北より）

▲ビル就業者向けウェルネス･ビューティー関連サービス（イメージ）

▲ビル就業者専用アプリ（イメージ）

（３）環境配慮型のまちづくり

常盤橋タワー（A棟）と合わせて整備予定の日本橋川沿いの親水空間及び街区中央の先行整備広場（約3,000㎡）における環境負荷低減に係る各種取組により、SITES®※1予備認証（国内の都心複合ビル開発プロジェクト初のゴールド認証）、DBJグリーンビルディング認証〔自己評価申請で★★★★★

５つ星評価（国内トップクラスの卓越した「環境・社会への配慮」をしたビル）］、SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム認証）、ABINC認証（いきもの共生事業所®認証）等の環境関連の認証取得を進めております。また、常盤橋タワー（A棟）の開発資金調達においては、総合不動産会社初となる「グリーンボンド」を発行しています。

※1：敷地内のランドスケープに対して、設計デザイン（水資源・土壌・植栽の保全、人の健康とウェルビーイング）、建設（資材の再利用、施工時の空気環境保護）、運用（管理計画、利用者への説明）の３つの観点から環境負荷低減の取組をGreen Business Certification Inc.TM（GBCI®）（米国）が評価・認証する制度。

TOKYO TORCHにおけるニューノーマル対応施策

（1）街区全体での取組

TOKYO TORCH においては、ポストコロナ時代におけるニューノーマル対応施策として、屋外空間を最大限に活用します。常盤橋タワー（A 棟）と Torch Tower（B 棟）の間に広がる大規模広場（約 7,000 ㎡）、日本橋川沿いの親水空間、街区北側に拡大整備予定の常盤橋公園に加え、Torch Tower（B 棟）に、IF から 8F へ続く約 2km の空中散歩道（約 5,000 ㎡）とその終着地に広がる屋上庭園（約 2,500 ㎡）を追加整備し、屋外空間の総面積は約 2.0ha（＝約 20,000 ㎡）となります。広大な屋外空間が、外気を感じながら仕事ができるアウトドアオフィスとして、時にはリフレッシュの場として、ワーク・ライフをより豊かに演出します。

（2）常盤橋タワー（A 棟）での取組

先行して竣工する常盤橋タワー（A 棟）では、複数テナントによるシェアが可能な柔軟なオフィス利用に対応するオフィス商品企画の展開、非接触セキュリティの実装等を検討しております。具体的には、オフィスエレベーターへの行先予報システムの実装や Bluetooth によるモバイルセキュリティ認証技術の活用で、ビル入館時と就業者向け共用スペース入室時に、セキュリティゲートや扉の解錠を、IC カードに加えスマートフォンを活用したタッチレスで行うことが可能になります。

（3）Torch Tower（B 棟）での取組

Torch Tower（B 棟）では、常盤橋タワー（A 棟）での取組を拡大・発展させると共に、多様な通勤手段・働き方への対応として、自転車通勤に対応可能な大規模駐輪場を整備します。

▲Torch Tower（B 棟）IF-8F 空中散歩道

TOKYO TORCH全体で推進する参加型・発信型「まちづくり」

TOKYO TORCHでは、より多くの人にまちづくりに参加していただき、ONE TEAMで東京・日本の魅力を発信すべく、企業共創、地方自治体連携を推進してまいります。工事期間中の現地では、既に外部企業や地方自治体との協業による様々な取組を行っており、常盤橋タワー（A棟）や街区北側日本橋川沿いの親水空間にて、それらの取組を進化させた企画を展開することが決定しています。また、街区を越えて、個人とつながるプロジェクトにも着手しており、今後もTOKYO TORCHを共に盛り上げていく人の輪を広げる活動をおこなってまいります。

現在の主な取組・企画は以下の通りです。

TOKIWABASHI FOOD TRUCK STREET
（企業共創の取組）

ハウス食品グループ本社株式会社、株式会社Mellow、株式会社吉野家、株式会社コミュニケーションとの協業により、工事期間中の街区中央広場空間にフードトラックを展開しています。

「錦鯉が泳ぐ池」の設置
（地方自治体連携の取組））

錦鯉発祥の地として知られる新潟県小千谷（おぢや）市との協働で、常盤橋タワー（A棟）沿い親水空間内に「錦鯉が泳ぐ池」を含む「小千谷市PRゾーン」を整備。錦鯉の魅力や情報発信、同市特産品をPRします。

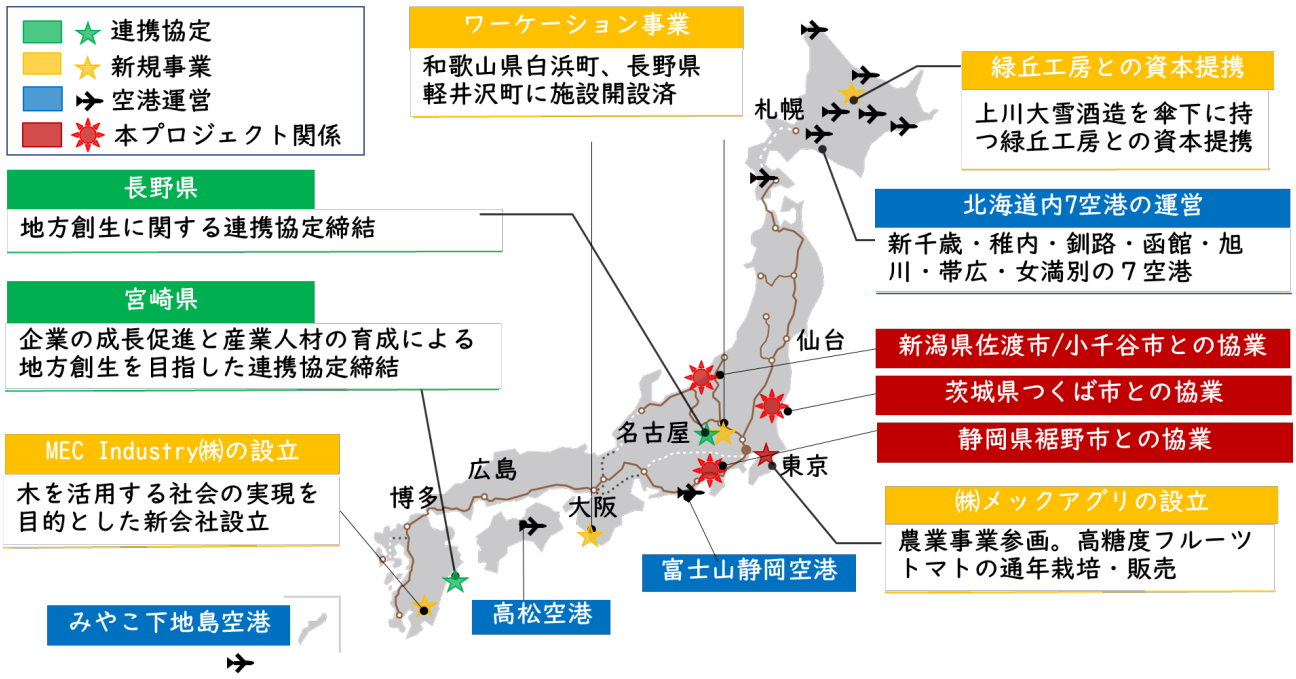
日本全国懸け橋プロジェクト
（個人とつながる取組）

2018年からTOKYO TORCH開業までの間に、全国の公務員有志の会「よんななの会」と当社が、日本全国47都道府県の橋洗いを通じて地域社会との交流を深めるプロジェクトです。

▲TOKIWABASHI FOOD TRUCK STREETの様子

▲親水空間内「錦鯉が泳ぐ池」（2021年夏完成）

＜三菱地所グループ展開事業とTOKYO TORCHにおける地方自治体連携＞



参考

＜今回の都市計画変更にて追加する都市再生貢献内容＞

１．都市基盤の整備

（１）大手町・日本橋地区を結節する呉服橋交差点地下通路の整備

（２）首都高地下化の実現に向けた協力

（３）地上歩行者ネットワークを補完する JR 高架下歩行者空間の美装化

２．都市機能の整備

（１）都心型 MICE の拠点となる 2,000 席級大規模ホールの整備

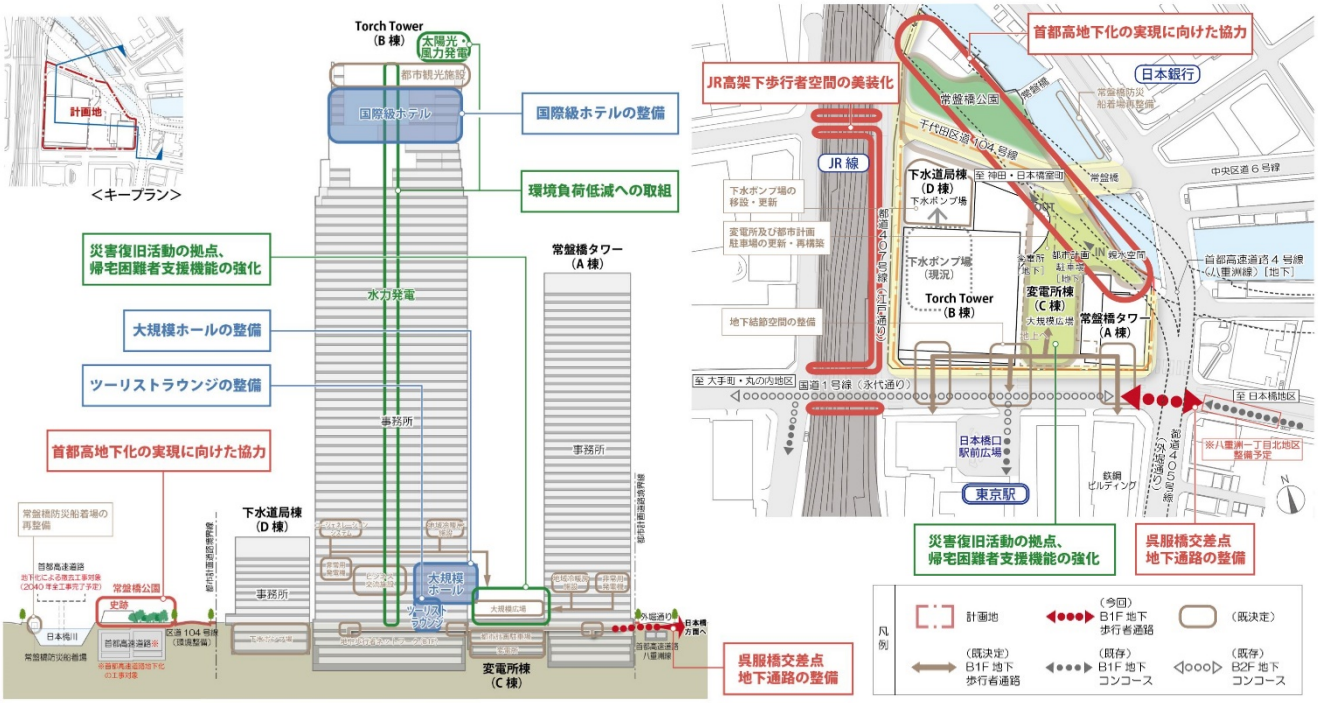
（２）観光先進国の実現に資する国際級ホテルの整備

（３）日本の玄関口として多機能を備えたツーリストラウンジの整備

３．防災及び環境負荷低減

（１）災害復旧活動の拠点・帰宅困難者支援機能の強化

（２）環境負荷低減への更なる取組



※既に都市計画決定済みの都市再生貢献内容（参考）

１．都市基盤の整備

（１）下水ポンプ場・変電所・都市計画駐車場の更新・再構築

（２）東京駅・周辺地区を結ぶ地下歩行者ネットワークの整備

（３）常盤橋公園の再整備と一体となった大規模広場・親水空間の整備

２．都市機能の整備

（１）「東京国際金融センター」構想の実現に資するビジネス交流機能の導入

（２）国際都市東京の魅力を高める都市観光機能の導入

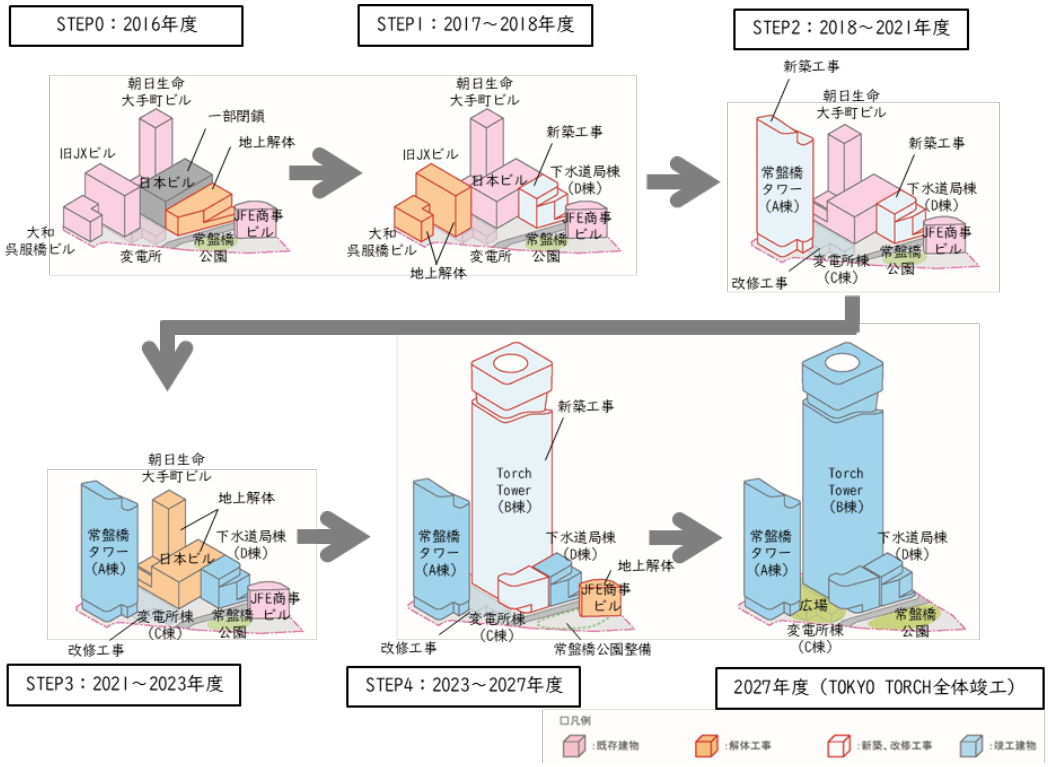
３．防災及び環境負荷低減

（１）災害復旧活動の拠点となる広場整備と帰宅困難者対策

（２）自立・分散型エネルギーの導入と水の自立化

（３）省エネルギー化による環境負荷低減

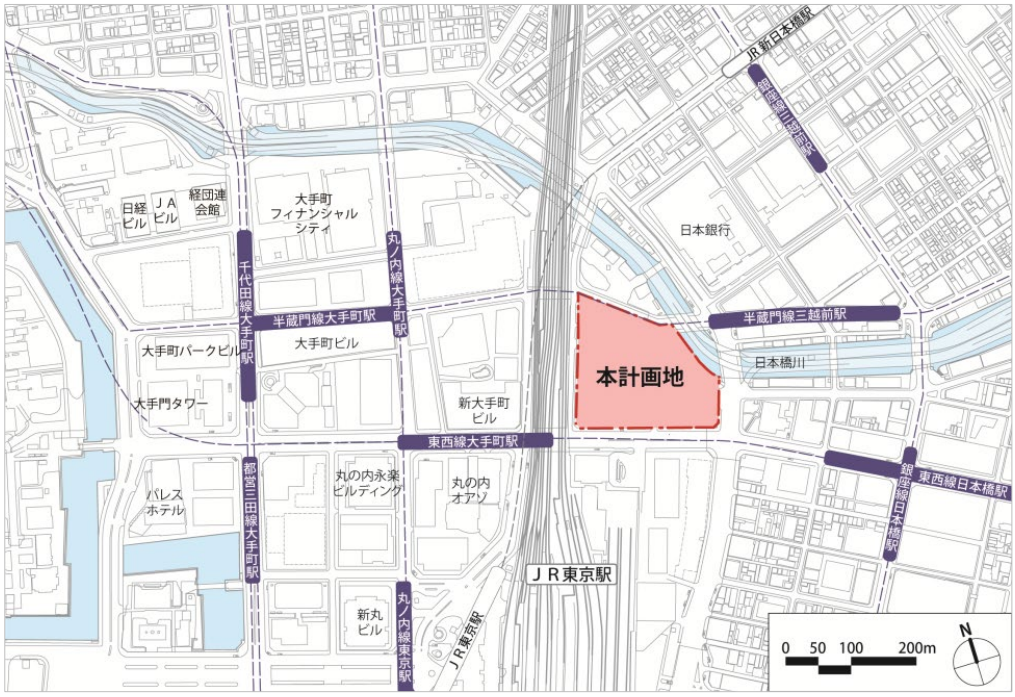
＜TOKYO TORCH 開発ステップ図＞



＜事業概要＞

街区名称	TOKYO TORCH				
事業名称	大手町二丁目常盤橋地区第一種市街地再開発事業　（施行者：三菱地所㈱）				
計画地	東京都千代田区大手町２丁目、中央区八重洲１丁目				
敷地面積	約 31,400 ㎡				
総延べ面積	約 740,000 ㎡				
棟別諸元	常盤橋タワー（A 棟）	Torch Tower（B 棟）	変電所棟（C 棟）		下水道局棟（D 棟）
主要用途	事務所、店舗、駐車場等	事務所、ホテル、ホール、店舗、駐車場等	店舗、変電所、駐車場等		事務所、下水ポンプ所、駐車場等
延べ面積	約 146,000 ㎡	約 544,000 ㎡	約 20,000 ㎡		約 30,000 ㎡
階数／最高高さ	地上 40 階・地下５階／約 212m	地上 63 階・地下４階／約 390m	地下４階		地上９階・地下３階／約 53m
着工（予定）	2018 年１月	2023 年度	Ⅰ期 2018 年１月	Ⅱ期 2023 年度	2017 年４月
竣工（予定）	2021 年６月末	2027 年度	2021 年６月末	2027 年度	2022 年３月末
設計監理	㈱三菱地所設計	㈱三菱地所設計	㈱三菱地所設計	㈱三菱地所設計	㈱三菱地所設計 日本水工設計㈱
施　　工	戸田建設㈱	未定	戸田建設㈱	未定	三井住友建設㈱
関係権利者	三菱地所㈱、東京都下水道局、㈱大和証券グループ本社、㈱三越伊勢丹、東京電力パワーグリッド㈱、有限会社大手町開発、独立行政法人都市再生機構、他				

＜案内図及び配置図＞



▲案内図

▲再整備前配置図

▲再整備後配置図

＜プロジェクトウェブサイト＞

URL: http://www.mec.co.jp/tokiwabashi/

※本リリース記載内容は、今後の検討・協議等により、変更となる場合があります。

【丸の内エリアのまちづくりコンセプト：「丸の内 Re デザイン」】

丸の内 Reデザイン

三菱地所は、2020 年以降の丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）におけるまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ※」と位置付け、“人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台”を創造していきます。「丸の内 Re デザイン」はその実現に向け、まちづくりのあり方から変えていくコンセプトワードです。

※始動リリース： https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf